

地域教育懇談会だより

郡山市教育委員会

令和5年12月18日(月)

逢瀬中学校区「地域教育懇談会」を開催しました

逢瀬中学校区「地域教育懇談会」を12月18日(月)午後6時30分から逢瀬公民館で開催しました。小学校、中学校、幼稚園の保護者や教職員、地域の皆様など、約50名の参加がありました。

前半は、小野義明教育長のあいさつに続き、学校管理課長が、「逢瀬中学校区の児童生徒数の推移と今後の郡山市立学校の学校規模・学校配置のあり方について」説明しました。

後半は学校運営協議会やPTA役員の皆様の司会のもと、学校・地域・教育委員会による熱心なグループ協議が行われました。

グループ協議



後半のグループ協議では、逢瀬中学校区の児童生徒数の推移から、今後の学校の在り方について、6つのグループに分かれ、様々な立場・視点から活発な意見交換が行われました。

地域の皆様から御意見をたくさんいただきました！

<A・Bグループ>

- ・人数が多いと誰かがやってくれるだろうと指示待ちになってしまう。少人数の中で自分を表現することができる。
- ・学区が広いので、放課後に子ども達だけで遊ぶことができない。
- ・逢瀬中が両小学校の間にあるため、小中一貫校を希望する。
- ・地域の良さを大人は分かっているが、子どもは分かっているところがある。逢瀬地区は魅力があるところ、地域の方から学ぶ。
- ・中学校進学後、部活動が限られているので、他校に進学する児童もいる。
- ・道路交通整備を進めていただくことで人口増になり、児童増にもつながる。
- ・スクールバス等運行の基準。
- ・統合については大歓迎。人数も増える。中学校で一緒になる。

<C・Dグループ>

- ・堀口分校の少人数ゆえの良さもある。分校を残したいと保護者は思っている。
- ・学年に女子一人はかわいそう。部活動数も少なく、集団に限られる。
- ・少人数の良さ以上に大人数の良さが上回るのだろうか。
- ・新たな校舎や河内小の校舎の活用は難しいので、複合施設中心の街づくりを。
- ・全体的に考えると統合せざるを得ない。
- ・支援学級が中学校からなくなってしまうのは寂しい。支援が必要な子どもも現在いる。
- ・子ども達の生活環境の変化によるメリット、デメリットを把握し、子ども達が不安を感じないように、今から準備をしていく。
- ・スクールバスの運行については、統合の条件になっている。少し歩かせたい。

<E・Fグループ>

- ・多くの考え方に触れさせたい。少しでも早く、一緒に学べる環境を希望する。
- ・自分達は小規模校で学んできて、その良さを感じてきた。人数が増えることで不登校になったりしないか。
- ・学校が小さいと教員の人数も少なく、バランスが良いとは言えないのではないか。
- ・スクールバスでの通学を希望。バスとタクシーの併用はできないのか。
- ・西田学園のように特認校にはならないのか。
- ・河内小をなくしたくないのが本音だろうが、保護者の大体は賛成である。
- ・統合しても将来的には100人を切ってしまう。それが課題となる。
- ・中学校の部活動数も問題。やりたい部活動がない。他の学校へ行くケースもある。

➡グループ協議では、貴重な御意見をたくさんいただくことができました。今回の地域教育懇談会がきっかけとなり、学校・家庭・地域の連携がますます図られますよう、今後も御協力をよろしくお願いたします。

